

発行者: 高知県老人クラブ連合会 高知市朝倉戊375-1 電話(088)844-9154
ホームページ: <http://www.yosakoicroc.net/>



はちきん大会より

ご挨拶

高知県老人クラブ連合会 会長 鈴木 彬夫

県老連 28 年度の行事も会員皆様のご協力によりやり終えることができました。29 年度も更に磨きをかけ、会員皆様の賛同をいただける事業を実行してゆきたいと思っています。

言うまでもないことですが、老人クラブは「老人福祉の向上に資する事業を行う」団体です。(老人福祉法)

事業を起して「なんぼ」の団体です。

その「なんぼ」は事業の数だけでなく質にも向けられるのは当然のことです。

漫然と「前年度の事業を踏襲する」は許されなく、今の時代を生きている我々高齢者のニーズ（求めて

いるもの）に合った事業でなければ共感を得ることが出来ません。

このニーズを探り、察知し、乾いた喉を潤す水をタイムリーに提供するそんな事業が求められます。

別の言葉で言えば、起こす事業によって団体の真価が問われ評価されるということだと思います。

超高齢社会の今、高齢者がマジョリティー（大多数）を占めている今の時代、老人クラブが高齢者を代表する団体として、その存在を世に示す時期に、クラブ数、クラブ員は大きく減少しています。

平成 10 年をピークに全国的にも、高知県でも、減少の傾向は同じで、会員増強の叫ばれている今日

においても歯止めがかかっているとは言えません。

どうしてでしょうか。

- ①平成の大合併による自治体数の減少
- ②過疎化・限界集落の出現等自治体の変化
- ③生き方の多様化（趣味の多様化、個人主義的傾向、人間関係の煩わしさからの逃避）
- ④会長・会員の高齢化

等々のことが原因としてよく言われています。

自責・他責が混じり合っていますが、いずれの項目にも自責の部分があるように思われます。生き残りの道は、自責の部分を丁寧に穴埋めしてゆくしかないようです。

かつて日本にはこんな企業がありました。

「こんな素晴らしい性能を持った商品を買わないのは、消費者に問題があるんだ」さすがに今日では淘汰され、絶滅危惧種になっているはずです。提供する側の論理ではなく、受け手の論理、まさしく「受け手ファースト」です。

県も市町村も単老に至るまで、自分たちの事業・活動が受け手のクラブ員・地域の高齢者に心より受け入れられているか、そのことを最優先するよう一層努めていただきたいと思います。

くどいようですが、我々は事業・活動を起こして「なんぼ」の団体です。これで勝負する外に道は無いようです。

平成29年度事業に向けて

平成 29 年度事業計画は 3 月 16 日の第 2 回評議員会にて承認されました。

6 つの重点取り組みは次の通りです。

6 つの重点事業

一、会員増強運動を推進しよう！

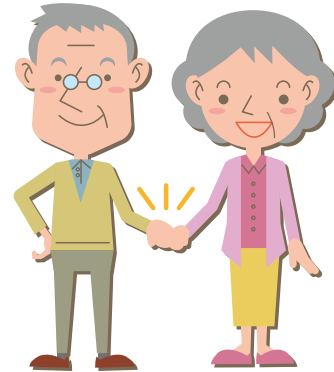
全老連が定めた「100 万人会員増強運動」に呼応して、平成 30 年度までに会員数 35,000 人を目標に取り組みを進めています。

平成 26 年度の運動開始からの 2 か年の実績では、運動開始前から 2,100 人減少し、減少率はマイナス 9 % となっています。

これまでの取組で、減少割合が少なくなったり、会員の増加につながった老連があるなど一定の成果

も見えていますが、厳しい状況にあります。

クラブの PR や勧誘を行い、会員増を目指すとともに、解散クラブ防止に取り組み会員増を達成しましょう。



二、老人クラブも介護予防や生活支援の担い手になろう！

介護保険制度の見直しにより、要支援者への介護予防給付（訪問・通所）について市町村は、平成 29 年 4 月までに、独自の新地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業）に対応することが必要になりました。

まずは市町村で行われる協議の場に市町村老連会長も参加し、老人クラブも介護予防や生活支援に資する取り組みを行なっていることへの理解に努めましょう。

この事業と老人クラブとの関わりでは、「友愛活動」「健康づくり活動」との関連性が高く、とりわけ友愛活動の広がりが期待されています。行政との連携に努め、新地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業）との関連性を深めていきましょう。

また、新地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業）に取り組むことで、クラブの活性化を図り、会員増強運動にも弾みをつけましょう。

三、高知市老連等の加入を県老連全体の活性化につなげよう！

ほぼ全ての老人クラブが県老連に加入したことで、ブロック単位の研修会は、開催箇所を増やし、新たな会員も参加しやすい環境づくりに努めてきました。

これからも、多くの方が研修会やイベントに参加しやすいあり方を検討していくことが必要です。

また、組織が拡大したことにより様々な経験を持った多様な会員が集結することになりました。相

互に交流することにより、県老連全体として組織力を高めるとともに、活動の内容と質をより高め、会員の満足感が得られるよう取り組みます。

四、健康づくりと介護予防を推進しよう！

これまでキャラバンメイトと健康づくりリーダーの養成に取り組んできましたが、さらに知識を高めていただくとともに、新たな人材の養成にも努めていきます。

また、こうした方々が地域で認知症に対する啓発や健康づくり活動に関わっていくきっかけづくりとなる委託事業を行います。

五、若手高齢者広域スポーツ等交流大会を開催しよう！

企画から運営まで若手委員が主体となって取り組み、複数の市町村老連が参加できるスポーツ大会等の開催を支援していきます。

ハイキング、ボーリング、ゴルフ大会の他、文化的な取り組みなど若手高齢者の活動の場を広げる効果があるとともに、複数の市町村老連の広域的な交流と会員増にもつながっています。

六、若手・女性委員の活動の場を一層広げよう！

「元気ハツラツ交流会」と「はちきん大会」は多くの方が参加し、会場と一体となって盛り上がった素晴らしい大会となりました。

大会が成功裏に終わったのは、若手・女性委員による企画と準備、自分たちによる自主的な運営によるものであり、その企画力と行動力は着実に向上しています。

今年度もこうした交流会や研修会を通じて、これからの県老連の活動の基盤となる人材を育てていきます。



29年度行事予定表

月	日	行事名	開催場所
4	5日(水)	県老連女性委員会総会	高知市
	18日(火)	市町村老連会長・事務局担当者会	〃
	25日(火)	県老連若手委員会総会	〃
5	24日(水)	県老連理事会	高知市
6	9日(金)	県老連評議員会／理事会	高知市
	13日(火)	介護予防ブロック別研修会(中央西)	仁淀川町
	29日(木)～30日(金)	中四国ブロック老人クラブリーダー研修会	広島県
7	14日(金)	事務担当者会	高知市
	20日(木)	介護予防ブロック別研修会(幡多)	黒潮町
8	3日(木)	第59回四国老人クラブ大会	徳島県
	24日(木)	第6回元気ハツラツ交流会	高知市
9	20日	全国一斉「社会奉仕の日」	
10	11日(水)	集え！競おう！ろうれんピック 2017(中部会場)	高知市
	18日(水)～19日(木)	第46回全国老人クラブ大会	京都府
	25日(水)	集え！競おう！ろうれんピック 2017(東部会場)	芸西村
11	8日(水)	第57回高知県老人クラブ大会	高知市
	中旬	集え！競おう！ろうれんピック 2017(西部会場)	未定
1	下旬	はちきん大会	高知市
2	3日(土)	県老連主催ボウリング大会	高知市
	2月初旬～3月	健康づくりリーダー養成講座	県内3会場
3		若手会員パワーアップ研修会	未定

*その他の行事

日程が決まり次第、お知らせいたします。

介護予防ブロック別研修会

(高幡・中央東・安芸・高知市) 5月～7月

ブロック別新任会長研修会(県内3会場) 6月～7月

ブロック別リーダー養成研修会(県内6会場) 8月～2月

第56回高知県老人クラブ大会

第56回高知県老人クラブ大会が昨年11月17日にふくし交流プラザで開催されました。

県内各地より約323人の老人クラブ関係者が出席されました。

ご来賓として、尾崎正直高知県知事、県社会福祉協議会上岡義隆会長をお迎えしました。



大会式典

本大会で受賞された団体・個人の方々は次のとおりです。〈敬称略〉

高知県知事表彰

山北地区高齢者クラブ（香南市）

山北地区の3単老がひとつとなり、高齢者クラブでの事業だけでなく山北地区での事業へ積極的に参加する等地域活動に活発に取り組んでおられます。

特に、城山の花公園の菊作りに携わり、毎年見事な花を咲かせ、多くの人を魅了しています。

事業ごとに会員全員に声をかけ、楽しく健康管理ができるよう事業を推進しています。

また、地域で声をかけ合うなど若い世代の入会を促進し、クラブ発足時の人数を維持されています。

県老連会長表彰

◎役員功績者

中屋 米芳（室戸市）	濱田 洋（南国市）
山崎 一郎（南国市）	高橋 学（南国市）
青木 一男（土佐市）	中嶋須磨子（土佐市）

平野 義郎（四万十市）	木戸 敏雄（四万十市）
曾根 満子（四万十市）	岡林 満（香南市）
垣内三四子（香南市）	寺田 京子（香南市）
濱中 俊子（奈半利町）	川井 壽（大豊町）
永野 直幸（大豊町）	山中 勝猪（いの町）
山中 義深（いの町）	高橋スエノ（いの町）
鎌倉 澄子（仁淀川町）	谷口 郁子（中土佐町）
古味ちか子（越知町）	森下 順子（日高村）
澁谷 綾子（日高村）	戸梶 邦男（日高村）
山中 明子（日高村）	坂東 清（日高村）
井関朝太郎（津野町）	宇都宮敬也（津野町）
市川 廣美（津野町）	明神 慶子（津野町）
中平とし幸（四万十町）	益永 隆雄（黒潮町）
酒井 隆昌（黒潮町）	

◎会員功績者

吉村 栄吉（宿毛市）	川村 孝子（四万十市）
西井美美子（四万十市）	久松美知子（大豊町）
松下 智（四万十町）	

◎会員増強老人クラブ

福 寿 会（津野町）

◎協力援助者

土居喜久美（宿毛市）



受賞者を代表して謝辞

講演は、コミック「釣りバカ日誌」の初代担当者として作品づくりに関わり、主人公の「浜崎伝助・通称ハマちゃん」のモデルとして知られています、南国生活技術研究所代表 黒笹 慈幾氏に、編集長時代の思い出や高知に移住されてからの高知の魅力についてお話をいただきました。



第45回 全国老人クラブ大会

昨年 11 月 9 日・10 日の 2 日間、富山県において全国老人クラブ大会が開催され、全国から約 1,300 名が集まりました。本県からは鈴木会長はじめ 12 名が参加しました。



初日は、活動交流部会が開催されました。

第 1 部会「地域に健康づくり・介護予防活動の輪を広げよう！」をはじめ、3つの部会では、それぞれ充実した活動発表がされました。

2 日目は、「健康寿命の延伸を目指して」の演題で富山市長の講演がありました。健康寿命を伸ばすためには歩くことが重要であり、高齢者の外出と交流を促すために様々な仕掛けづくりを行っていると話されました。

その後、表彰式典が行われ、本県からは次の方々が表彰されました。〈敬称略〉

◎育成功労表彰

筒井 彰（大川村） 明神 辰子（梶原町）

◎優良老人クラブ表彰

稲生西立石長齢会（南国市）

◎優良郡市区町村老人クラブ連合会表彰

日高村老人クラブ連合会

はちきん大会

1 月 28 日に県老連女性委員会主催の「はちきん大会」が開催され約 237 名が参加されました。



まず初めに『キラリと光る活動発表』を次の 5 名の方にいただきました。

中岡 恒子(高知市老連) 野村 町子(日高村老連)
濱田 佐恵(黒潮町老連) 美濃 公子(室戸市老連)
大西 静(いの町老連)

次に四万十市社協 西土佐支所長の今城久枝氏を講師に迎え「川柳講座」を実施。

「幸せ」「宝物」「ひみつ」をテーマに会員さんからたくさんの川柳が集まり、その中から選定された 45 点の作品を解説しながら、川柳の面白さを分かりやすくお話いただきました。

(作品は 7 頁に掲載しています。)

午後からはファッションショーが行われ、大正浪漫やパリコレなどのテーマに合わせた衣装で軽快に出演いただきました。

続いて、還付金詐欺を題材にした寸劇を高知警察署員と高知県県民生活・男女共同参画課の職員さんに分かりやすく演じていただきました。

その他、認知症予防スリー A ゲーム、芸能発表などを行いました。

会場内には着物をリメイクした洋服等の作品を展示するなど盛りだくさんの 1 日となりました。



認知症予防スリー A ゲーム



キラリと光る活動発表



川柳講座



着物リメイク作品

会員数2万9千人に－2年間で2千6百人減少－

平成26年度から取り組んでいる会員増強運動は、3年目の折り返しを迎えました。

平成28年4月までの2年連続で会員が増えた老連は5団体で、平成28年4月までの1年間で会員が増えた老連は4団体ありました。

室戸市老連では、役員会毎に会員増強の啓発をしたり、加入しそうな人に的を絞って勧誘されたりしています。安芸市老連では、サークルを立ち上げてクラブ復活を働きかけたりされています。また、土佐市老連では、若手会員のニーズの高いハイキングやボーリングを活動に取り入れるなどされています。

それぞれに工夫しながら取り組まれています、2年間取り組んだ結果は、県老連全体で、71単老2,627人の減少となり、大変厳しい状況です。

クラブのPRや勧誘を行い、単位クラブの会員増を目指すとともに、解散クラブ防止と新規クラブの立ち上げに取り組み、会員増をはかっていきましょう。

市町村別老人クラブ数・会員数の推移 (26年度・28年度)

	28年4月		26年4月	
	クラブ数	会員数	クラブ数	会員数
高知市	166	6,940	177	7,698
室戸市	23	1,097	21	987
安芸市	35	1,265	33	1,220
南国市	40	1,529	43	1,723
土佐市	18	867	15	832
須崎市	17	608	20	697
宿毛市	30	1,203	34	1,295
土佐清水市	43	1,687	43	1,630
四万十市	31	1,164	36	1,362
香南市	36	1,083	42	1,268
香美市	36	1,235	41	1,368
東洋町	2	93	10	151
奈半利町	7	171	7	190
田野町	7	235	7	244
安田町	7	160	7	170
北川村	5	150	5	153
馬路村	2	54	2	66
芸西村	2	91	4	92
本山町	9	294	13	397
大豊町	12	382	13	424
土佐町	11	600	12	613
大川村	2	56	2	59
いの町	37	1,461	36	1,410
仁淀川町	15	696	17	865
中土佐町	14	415	16	463
佐川町	23	603	29	723
越知町	6	236	6	264
梶原町	14	406	15	538
日高村	19	691	19	698
津野町	22	776	25	846
四万十町	31	927	39	1,153
大月町	31	1,218	32	1,306
黒潮町	38	1,450	40	1,565
合 計	791	29,843	861	32,470

*クラブ数・会員数は平成28年4月1日現在、及び平成26年4月1日現在、市町村老連からの報告

2年連続で会員が増えた老連

28年4月までの1年間で会員が増えた老連

会員増強 7つの目標

高知県老人クラブ連合会では、会員増強運動に取り組んでいます。
各クラブでも、次の目標を中心として取り組みを進めていきましょう。

1

解散クラブをなくそう!

クラブの解散が会員減の大きな要因です。日頃から、後継者の養成。
女性会員・若手会員を積極的に役員に登用しよう。困りごとは、市町村老連に相談しよう。
解散だけが選択肢ではない、クラブ活動をしたい人だけでも会を存続させよう。

2

まず、減少傾向に歯止めをかけよう!

会員同士のつながりを深め、輪を広げ会員の減少を防ごう。
賛助会員やお試し参加などにより、すそ野を広げよう。

3

勧誘から始めよう!

まず、誘うこと。会員一人ひとりが勧誘の担い手。知り合いや加入しそうな人に声をかけよう。
サークル活動や地域での行事の際に声をかけよう。

4

魅力ある活動をしよう!

若手会員が参加しなくなるような活動をしよう。
楽しいクラブにしよう。
市町村と連携して新地域支援事業(介護予防・日常生活支援総合事業)に取り組もう。

5

クラブをPRしよう!

市町村の広報紙、社協だよりや公民館だよりで広報してもらおう。
自治会活動や地域行事に参加して、クラブの存在を知られるようにしよう。

6

新規クラブをつくろう!

空白地域を把握し、すべての地域にクラブをつくらう。
廃止や休止したクラブの再開を働きかけよう。
少人数から、小さく産んで大きく育てよう。

7

地域の団体と連携しよう!

自治会や町内会など他の団体とも連携して活動しよう。

— 発行 —
(公財)高知県老人クラブ連合会
高知市朝倉5375-1
TEL088-844-9154
FAX088-840-5299

川 柳

ご応募いただきました中から一部をご紹介します。

◆ ◆ 幸 せ ◆ ◆

柚子取りの作業の顔かお空の色（高知市 山崎 ナミエ）
 ステージの踊るソーラン気は若い（四万十市 上野 千種）
 自分には甘い心の匙加減（四万十市 竹崎 久子）
 寄り添えばしずかに水の流る音（四万十市 中平 嘉子）
 しあわせと湯気にささやきつつ鍋（四万十市 吉岡 郡子）
 触れ合いの心通いし土佐の市（いの町 筒井 孝子）
 気づかない幸せもあり茶がうまい（高知市 小野川 町子）

◆ ◆ 宝 物 ◆ ◆

子や孫がわしらの一の宝物（土佐市 海治 貞昭）
 百才の母を宝に我が家の灯（香南市 常石 麗子）
 君からの消せないでいるこのメール（いの町 植田 江里子）
 迷い犬今は我が家の宝物（大豊町 杉本 康子）

飛び降りる気持で買った宝物（宿毛市 山本 栄美子）
 十七の文字を集めて玉手箱（高知市 安丸 進）

◆ ◆ ひ み つ ◆ ◆

おばあちゃんママにはひみつよ耳かして（いの町 山下 征恵）
 譲らない主張ひみつに持つ出口（香南市 常石 麗子）
 肩書もひみつも無くて里暮らし（大月町 長山 小夜子）
 ひみつ基地持てぬまま老いて平和なり（高知市 高橋 俊子）
 ひみつ持つ二人の瞳春がすみ（高知市 淡中 洋子）
 ひみつよと言えば尾が生え羽が生え（梶原町 西村 美子）
 秘め事は一つ墓まで千鳥足（四万十市 西岡 成人）

その他ご応募いただいた皆様方ご協力ありがとうございました。

昭和の思い出

永富 徳次郎さん

（90 歳・宿毛市）

小筑紫村（現・宿毛市）立小筑紫尋常高等小学校尋常科1学年の夏休みの写真で、下方の丸印が水泳中の私です。また左上の角印も当時の私です。

写真左下の「屋台船」は、料理屋「松月桜」の所有船で、街中に3軒もありました。右のボートは、少年団所有の短艇で、小学校の土間に2隻

保管していました。右に係留している船は石材や木炭を運搬するダンベです。中央の島は、菅公（菅原道真）縁の「七日島（なぬかじま）」で、〈平安時代の後期、右大臣・菅原道真は、左大臣・藤原時平の讒言により、大宰府に左遷される途中、台風に遭遇し、この島に流れ着いたという伝説〉によります。

当時、武山晋輔校長はこのような歌を作りました。『学校の南の七日島、お茶碗伏せた七日島、松に椎の木青々と、その間につつじは赤々と。昔は菅原道真が七日の宿をしたところ、いまは花咲く遊園地、今は花咲く遊園地。』



昭和初期ののどかな小筑紫湾港の風景

～昭和7年8月撮影～



私のグッドタイム

昨年開催された「ろうれんピック」の最高齢出場者の松崎鶴一さんにインタビューさせていただきました。

田野町老人クラブ連合会

松崎 鶴一 (95 歳)

昨年末に車の免許を返納したばかりの松崎さんはピカピカの電動自転車にグラウンド・ゴルフのクラブを乗せ、颯爽と走られます。

松崎さんは安芸の旧制中学校を卒業後、高知営林局に入局。林業技師として旧満州に渡り、林野局に務められます。戦時中は善通寺や久留米の部隊に配属され、旧満州と旧ソ連の国境で駐屯し、終戦を迎えます。日本への引き揚げには命の危険もありましたが、無事帰還されました。

終戦後は過去にとらわれず、地元の田野町でアイスキャンデー屋を創業。北川村などにも自転車で鐘を鳴らしながら、行商に出かけていました。

努力の甲斐あって、有限会社松崎冷菓工業を設立。現在は息子さんに引き継がれ、地元食材にこだわった無添加のアイスクリームを全国に流通されて

います。

松崎さんは引退後も常に新しいことに挑戦されます。町議員を 77 歳まで務め、地域活動に精力的に関わったり、スポーツの分野ではスカッシュバレー（田野町発祥）の発案に加わられたり、またゲートボールが衰退すると、いち早くグラウンド・ゴルフの普及を行いました。

奥様の富恵さんは同い年の 95 歳。お二人で仲良く暮らされています。

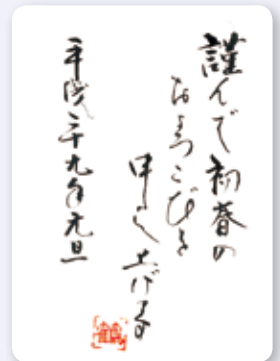
健康の秘訣は良く食べ、良く動き、良く頭を動かすこと。

朝食は鶴一さんが作られ、りんご、バナナ、トマトやお芋など果物や食物繊維の多く取れるものをたくさん食べられるそうです。

画や書にも長けておられ、以前、寧浦全国色紙展で土佐鶴賞を受賞されています。

出会った方にはすぐにお礼の手紙を出されるなど、いくつになっても人に感謝する気持ちを忘れない松崎さん。

前向きで、心優しいお人柄だからこそ周りにはいつも人が集まるのだと思います。



松崎さんから届いた年賀状



週 3 回のグラウンドゴルフ練習

会員増強は勧誘から始めよう！

会員一人ひとりが勧誘の担い手です

- 未加入高齢者へのアンケートでは、クラブに「誘われたことがない」という回答が多いです。
- 高年は高年、女性は女性、若手は若手を誘ってみよう！